NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2016

4月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

～ もくじ ～

2｜二言三言~骨寺村荘園交流館が行なう地域づくり~

4｜団体紹介~一関楽走会~（一関）

5｜地域紹介~東山町　松川第2区自治会~（東山）

6｜企業紹介~合同会社　農家レストランぬくもり~（川崎）

7｜センターの〇〇！~今回の特集は？気になるあのデータ~

フタコト×ミコト

第 23 回　二言三言 33/122,359

骨寺村荘園交流館が行なう地域づくり

対談者　骨寺村荘園交流館（若神子亭）　館長　**五十嵐正一さん**

聞き手　いちのせき市民活動センター　センター長　**小野寺浩樹**

地域に根差した拠点づくり　５年間を振り返る

【小野寺】まずは、若神子亭の紹介からお願いします。

【五十嵐】骨寺村荘園交流館（以下「交流館」）は、震災があった平成 23 年にオープンしました。交流館を設置した目的は、骨寺村荘園遺跡の歴史や価値を映像や展示により学習していただくこと、骨寺村荘園遺跡を訪れる方が産直や食堂を通じて地域内外の皆さん方と交流いただき、それにより、ここに住み続けていくということがこの遺跡・景観を守ることになるので、この地域の活性化を、施設を通じてやっていけるようにということで設置されました。

【小野寺】交流館が設置されてから5年も経つんですね。5年間を振り返ってみてどうですか？

骨寺村荘園交流館（若神子亭）
館長　五十嵐正一さん

【五十嵐】オープンしてからは、お陰様で入館者が増え続けています。23 年度の入館者は 18,000 人で、昨年は 25,500 人くらい。今年は1月末で 26,000 人を超えています。昨年8月にはトータルで 10 万人を突破しました。当初は不安だらけでしたが、行政の皆さん、地域内外の皆さんの協力で入館者については順調に増えています。

【小野寺】交流館に立ち寄られる方は、世界遺産の構成資産の一部であるという考え方の骨寺村荘園遺跡を見に来る方が多いんでしょうか。

【五十嵐】平泉が有名ですから、平泉を見てから骨寺も知っておくということで見に来る方が多かったのですが、旅行会社の方に言わせれば、絵図を見ながら平泉と骨寺の関係を知った後に平泉に行った方が、平泉そのものをわかりやすいという評価もいただいています。

【小野寺】こういう施設があるということはよいことですよね。荘園や田んぼしかなかったときから比べると、この交流館ができたことにより視覚的に訴えられるので、わかりやすさが人の気持ちを引いていきますよね。ただ「田んぼを見に来てください」というのもなかなか難しいので。拠点があることで、行きやすさ、わかりやすさが人の心に伝わるかなと思います。

【五十嵐】おっしゃる通りです。「骨寺村荘園遺跡が世界遺産候補、重要文化的景観に選定された」と報道されても、こういう施設がないと、骨寺に来た方にどのようにご案内・説明するのかという話が出ておりました。この施設のシアターで映像を見た方からは「非常にわかりやすい」「すごいね」という評価をいただけるようになったんです。そういうところでは、この施設は本当にありがたいなと思います。

喜びや生きがいが人を輝かせ、地域の活力になる

【小野寺】若神子亭を運営していて、よかったと思うことは何ですか？

【五十嵐】今の会員メンバーは 49 人で、その方々の多くが産直で物を売っているんですが、販売は顔が見える関係じゃないですか。産直で物を売る方やレジの方が、お客様と直接話をし、交流できる。その中で自分が作った野菜、あるいはとってきた山菜を食べた方から、「とても美味しかったですよ」という励ましの言葉をもらうと自信になるとか、そういうのはよいことだと思います。

【小野寺】生産している物を持ってくる方は、対面式ですよね。直接声を聞けるから、今度ああいうものを作ってみようかなという励みにもなっていくし、作っていれば売れる喜びもありますから、そこはすごくよいコミュニケーションの場になっていますよね。前に行ったワークショップでは、運営に係わっているお母さんたちのやりがい・生きがいになっていて、お父さんそっちのけで「若神子亭に通うのが楽しくてしょうがない」と言っていたお母さんの話がおもしろかったのですが、今もそのような感じですか？

【五十嵐】野菜を持ってくるのも、レストランの食事もお母さんたちがつくったものですし、そういう意味ではお母さんたちは元気ですよね。もともと元気だった地域のお母さんたちが、さらに元気になっています。
【小野寺】きっかけがあると、今までの元気プラスもっと元気になるということですね。そこですよね。きっかけが今どこもなくて引きこもりがちになったりとか、手持ち無沙汰になったりするんですけど。こういう指定管理なり、拠点で活躍できる場があると、人は輝くと思います。
【五十嵐】そこだと思いますね。ですから、周辺の地域の皆さんの方にも「本寺の人達はいいよね」という風に話をされるんだそうです。

【小野寺】私もその話は聞きますね（笑）
【五十嵐】大変な時もあります。農作業と運営と掛け持ちですから。でも、60 歳を過ぎてから働けるところがあり、売れるところがあることは非常にありがたいことだと思いますね。ここは野菜だけじゃなくて、山菜とか、山の幸のものを出すというのが基本的なコンセプトなものですから、そういう意味では、お父さんたちが山に柴刈ではないですが、そういったものを収穫して、ここにそれを仕分けて、お出しになる。そういう仕組みも出来つつありますので、そういう意味では上手くお父さんとお母さんと分担ができているんじゃないかなと思います。
【小野寺】地域の活力は個人の活力ですよね。
【五十嵐】そうですね。
【小野寺】骨寺が元気になっていきますよ、なんていうときの一つの拠点として交流館があって、その拠点に地域の人が出てきてやること・やりたいことがあるから生き生きするっていうことですよね。交流館をつくった機能の目的の達成の仕方としては、すごく良い達成のされ方なんでしょうね。そういう人の観光の拠点になりつつあるし、地元の人にとってもここが生き生きする拠点になったりするということですからね。

夢のある職業選択の一つになることを目指して

【小野寺】実際、若神子亭の運営をしてみて、難しいなと思うことはありますか？
【五十嵐】一番は、冬のお客さんが少ない時期に、どういう風に管理・運営していくかが大きな課題です。あとは、次の世代の方、若い方に活動に入ってきていただき、働けるような場所になっていけばいいのかなと思っています。
【小野寺】今はまだ運営に支障はないけれども、今やっている人達が5年～10年と高齢化していったときに、次世代の運営の部分は今から準備しなければならないというところが、やはりあるんですね。地元で、若神子亭に就職するんだという職業になっていくといいですね。
【五十嵐】そのためにも、ここが 365 日働ける施設になって、生活できる賃金が出せて、社会保険などの保障もしっかりできるようになるなど、そういう仕組みができれば、「私の将来就職したいのはここだ」というように思ってもらえるんじゃないかと思うんですよね。
【小野寺】地元で育って地元の空気を知っていて、地元の歴史を知っている、今の子ども達なんかがあと5年後くらいに、若神子亭に就職したいんですとなってくれれば万々歳ですよね。どこかに就職を探しに行きますじゃなくて。
【五十嵐】私自信もそういうことを目指していきたいと思います。現状に満足するのではなく、やはり、次の世代にバトンタッチできるような仕組みをつくっていかなきゃなんないなと思っています。

【小野寺】我々も、色々な地域との関わりをもっていますので、地域間のコラボレーションとか連携というところでは情報提供だったり、お手伝いできるかと思いますので。
【五十嵐】ぜひよろしくお願いします。
【小野寺】今はどこもかしこも指定管理とか、地域管理に移管していきますというのがブームですけれども、やはり、ある程度責任とか保障の部分もしっかりつけていかないと、受け皿としては契約したくないじゃないですか。そこはしっかり市側も頑張って、しっかり用意するものは用意していただければと思いますし、夢のある場所として、ここが将来もあればいいなと思います。

基本情報

【骨寺村荘園交流館】
館長　五十嵐正一さん
住所　〒021-0131　一関市厳美町若神子 241-2
電話　0191-33-5022
開所時間　9:00～17:00
定休日　火曜日・年末年始

一関楽走会

団体紹介

一関楽走会の皆さん

～基本情報～

◆会　長:佐藤　東(さとうあずま)さん
◆連絡先:〒021-0902　一関市萩荘字川崎 48-2
◆電　話:0191-24-3250
※連絡先･電話ともに事務局浅沼善治宛
◆HP:http://iwateiwai.com/rakusoukai/
◆例走会:毎月第 1 日曜日　朝 6 時
一関市役所本庁前

明るく楽しく元気に走る

赤いジャージに身を包み

雪のちらつく 2 月の早朝、背中に「Ichinoseki」とデザインされた赤いジャージの人影が市役所前から 1 人、そしてまた 1 人、颯爽と走り去って行きます。それは毎月第 1 日曜の例走会後の一コマ､帰途につく｢一関楽走会（以下楽走会)」のランナーたちの姿です。

希望郷いわて国体が開催されますが、楽走会は設立を昭和 46 年（前回岩手国体の翌年）に遡り、5 月に 45 周年を迎えるという県内でも屈指の歴史を誇るランニングサークルです。楽しく走る事をモットーに 65 名（90 代の方も！）が在籍する楽走会について、佐藤東会長､浅沼善治事務局長のお二人にお話を伺いました。

フルマラソン完走者だけに見える景色

楽走会の活動は四季折々｡前述の例走会はもとより、4 月は観桜マラソンで桜を楽しみ、8 月は 12 時間交代で走るピースマラソンと、佐藤会長が「走る楽しみは爽快な汗を流した後の一杯｣と語る納涼ビアパーティ｡秋は一関国際ハーフマラソンや市民駅伝への参加。一関文化センターから毛越寺を目指す恒例の元旦マラソンは第 44 回を数え、3 月の総会も走ってから（総会マラソン）というのには驚かされます。

楽走会は年 2 回（春・秋）フルマラソンも行っていて、これまでに輩出した初完走者は取材時点で 109 人を数えます｡佐藤会長が楽走会 98 人目のフルマラソン初完走者となった年、シドニーオリンピックで高橋尚子選手がマラソン金メダルを獲得しました｡｢フルマラソンを完走したことで見える景色が変わった｣という佐藤会長は｢42.195km を走り切った自身の体験が高橋選手の凄さをより感じさせ本当に感動した｣と話します｡一方で､｢明るく楽しく走るのが楽走会｡生涯現役、健康で楽しく元気に暮らしたいならランニングを勧めたい。一緒に楽しく走りましょう｣と続け、楽しく走る仲間を増やしていきたいという抱負も語ります。

タスキを繋ぎ続けて 500 号

例走会などの活動があるとはいえ、個人種目のマラソンでは普段の練習は質量ともに会員それぞれ。高齢化や一関以外に住む会員もいることから、ともすれば楽走会の活動や行事への参加率も減少傾向という課題もあります。そんな中、昭和 49 年から毎月発行され、先日発行された 3 月号が記念すべき 500 号を迎えた楽走会の会報は、時に楽走会の歴史を、時に会員同士を繋ぐタスキの役割も果たしていると言えます。

会報はカラー写真をふんだんに使ったお知らせや活動報告の他、会員からの寄稿（近況やマラソン大会への参加報告など)､MVP(毎月自己申告された走行距離を一覧表で掲載)などで構成｡家に居ながらにして他の会員の動向を知ることができ、繋がりを感じられます。中でもレースへの参加報告は、大会の様子やレース中どんなことを考えながら走っていたかなど臨場感にあふれており、会員同士の刺激にもなっています。

会報作りを平成 13 年 1 月の第 318 号から引き継いで以降､15 年以上欠かさず発行してきた浅沼事務局長は､積み重ねてきた誇りと充実感を表情に漂わせながら｢原稿募集と定期発行の難しさ。校正を重ねたつもりでも間違いに気付かず発行してしまったことも｣｢楽走会 45 年間の歴史の重さと､継続してきた先輩方への感謝の思い｣そう会報作りを振り返ってくれました。

春、新しい出会いの季節。今あなたの近くを走っているそのランナーも楽走会かも。新しいチャレンジへの一歩を一緒に走り出しませんか。

例走会の様子

東山町　松川第２区自治会

地域紹介

中央　自治会長　　千葉博司さん
左　　副自治会長　中村登さん
右　　区　　長　　鈴木誠さん

～基本情報～

◆自治会長：千葉博司さん（3 期 5 年目）
◆147 世帯が暮らす松川第２区自治会。加入率１００％を誇り、執行部、環境部、生活安全部、保健福祉部、教育文化部からなる組織の運営で、たくさんの魅力的な行事が行われている地域です。

これからの世代を担う子どもたちを見守りながら

東山町松川地域にある松川第２区自治会は、５つの部会から構成され、1 年間を通して様々な行事を開催。「松川地域で最も広く、最も人が多く、最も早く自治会が設立された」という松川第２区自治会の地域活動について、お話を伺いました。

先輩たちが残してきた「火」を消さないように

松川第 2 区自治会は平成 6 年に設立され、現在 147 戸、およそ 500 人が暮らします。丘の上にある松川市営住宅の 50 戸を含めた全世帯が自治会に加入しており、その秘訣について「自治会に入らなければというそれぞれの想い、そして先輩たちがやってきたところを、火を消したくないから頑張らないといけないという気持ちです」と自治会長の千葉さんは語ります。

1 年を通して、多彩な行事が開催され、執行部で行う「盆踊り大会」、環境部で年に 3 回行う「草刈り事業」、生活安全部で年に 2 回行う「交通安全」、保健福祉部で行う各種「スポーツ大会」、そして教育文化部で行う「文化祭」「演芸大会」などがあり、中でも館山公園で開催される「パークゴルフ大会」は、40 人以上の方が参加する人気行事。「高齢化が進み、若い人が減っている」という課題を解決するために、地域行事に子どもが出場する場面を増やし、その保護者の若い世代にも参加してもらえるようにし、焼き肉や芋の子会による交流会を開くなど、工夫をしています。

年に 1 回顔を合わせる貴重な機会

取材前日の 2 月 21 日（日）には、松川第 2 区自治会館にて、第 17 回演芸大会が開催されました。かつては 5 つあったという地域の女性たちの「踊りの会」は、現在はメンバーの高齢化が進み、「発表の機会に着る特別な衣装やお化粧などがいい刺激になっている」と区長の鈴木さんは語ります。「お年寄りの人達も楽しませないと、なにも行事がないとなかなか出てこない。演芸大会では、忙しい人では自分の班と出演団体とで 7 つぐらい出る人もいる」と鈴木さん。「若い女性は別室で着替えるのに、年を取るとその辺で着替え始めて、そのままステージに行ったり、もだくたってる（＝モタモタしている。動作が遅い様子を表す方言）暇なんかなくて」と副自治会長の中村さんは楽しそうに語り、また千葉さんは「年に 1 回のお互いに顔を合わせて行える貴重な場だから、この行事は必要だと思う」と、自治会行事の必要性について語ります。

子どもたちの姿を見るとみんな笑顔に

また、松川第 2 区自治会では「いきいきクラブ」がにこにこプラザひがしやまデイサービスセンターへ毎月 1 回訪問し、歌や踊りによる友愛訪問を実施。「孫を見ると、お年寄りの方はたとえ仏頂面をしていてもみんなにこやかな顔になる」と鈴木さん。「子どもたちの姿を見ると、これからの世代を担っていくんだなと頼もしい気持ちになります」と千葉さんは語ります。

自治会の中心世代が 60 代後半以上という高齢化が進んでいること、そして若い世代が自治会の活動に出てこないことを課題としながらも、中村さんは「10 年先には少子高齢化が進み、資金もなくなる。それで今の地域がどうなるのか、そのために何をしなくてはならないのかを考えなければならない。地域は人とのつながりを育てる場所。そのためにも、子どもを育てる、新たな命を育てるような雰囲気作りをしていきたい」と、今後の自治会運営に対する抱負を語ってくれました。

賑わう文化祭の様子

合同会社　農家レストラン　ぬくもり

企業紹介

食の匠
千葉　秀子さん

～基本情報～
◆食の匠：千葉　秀子さん
◆連絡先：〒029-0202
一関市川崎町薄衣字上巻 121
◆電　話：0191-43-2721
◆ＦＡＸ：0191-43-2721
◆利用時間：11：00～14：00
（5 名様以上要予約）

おふくろの味は地域の宝～未来へつなげ郷土の食文化～

何事にも常に挑戦する心を

岩手県の南端に位置し、仙台藩の流れを汲む餅料理文化圏、一関市。餅と同等に地域の伝統食として小麦粉に水を加えて練り生地を薄くのばして茹でた「はっと汁」も昔から親しまれてきた食文化です。とくに川崎町では、地域を流れる北上川で 8 月末から 10 月頃にかけて捕れたモクズガニから出汁をとり、はっとと旬の野菜を煮込んだ「カニばっと」が各家庭のおふくろの味でした。

「時代の流れとともに食の変化が激しかった頃、近所のお爺さんから昔ながらのカニばっとの作り方を受け継いだ」と振り返るのは、農家レストランぬくもり代表の千葉さん。昭和 62 年生活改善グループの活動をきっかけに郷土料理の伝承や研究、他グループとの交流などを行い平成 8 年岩手県認定の「食の匠」となりました。

千葉さんは、千厩の農家で生まれ育ち、嫁ぎ先でも稲作と葉タバコを生産。どんな農作物を育てるにも土づくりからこだわり、日々挑戦してきました。「転機が訪れたのは 50 歳の頃」と語る千葉さんは現在 75 歳。現在も朝 5 時から加工食品の仕込みを始め、従業員とともに挑戦することを常に忘れない元気なお母さんです。

次世代へつなぐ食文化

川崎町の国道沿いに小屋を建て、生活改善グループの仲間たちと産直「ふれあい市」を開店したのは昭和 64 年のこと。当時は野菜や果物（りんご等）の販売でしたが、「付加価値を付けて販売したい」というグループの思いと、持病の腰痛が悪化したことで、農業以外での収入を考え始め農産加工や経営について学び始めました。

平成 7 年から「かわさき農産加工推進研究会」に参加し、地元産を最大限に生かした農産加工品について研究を行い、その成果が実り平成 9 年には自家製野菜の加工販売に関する営業許可を取得しました。

「グループの活動を通し技術や知識、経営管理など様々な勉強ができたこと、多くの人と出会えたこと、一緒に頑張ってきた仲間、すべてに感謝です」と振り返る千葉さん。「農家レストランを起業したきっかけも、生活改善グループの研修会に参加し各地域の事例を見聞きした中から、『私も川崎村の食文化カニばっとを次の世代に伝えたい。この味を知ってもらいたい』という思いと『自然豊かな我が家で癒し、安全な素材にこだわった郷土料理を提供したい』という思いが強くなり、挑戦してみようという気持ちが強くなった」と続けます。さらに千葉さんは「自分が今まで経験したこと学んだことは惜しみなく伝承していきたい」と後継者育成に力を入れています。

笑いも涙も二人三脚で支え合う

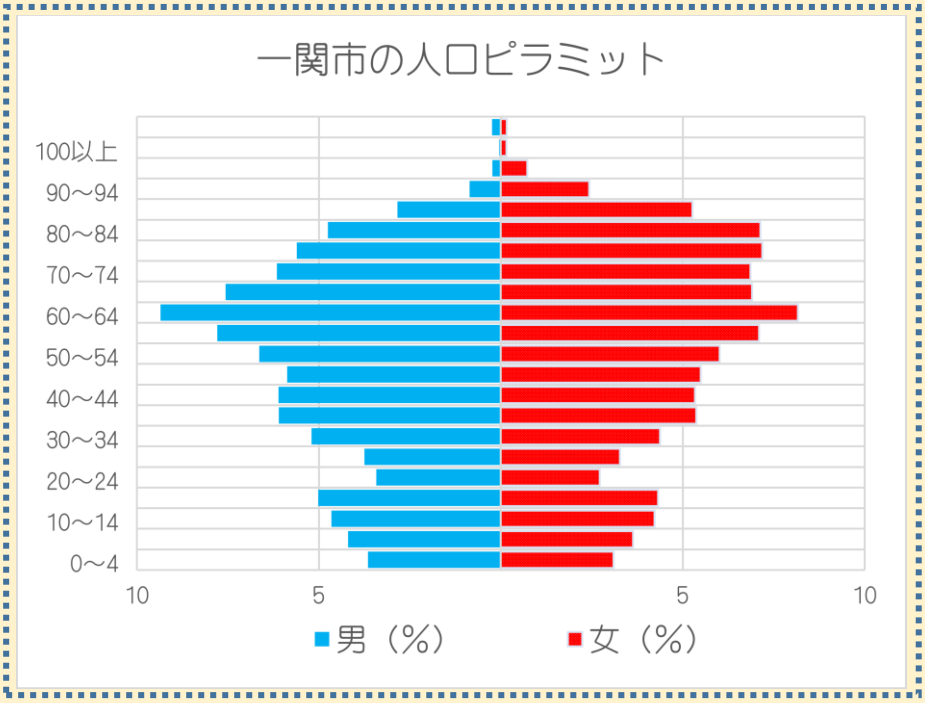
カニばっとの主役モクズガニ漁の名人であり一緒に野菜を作るパートナー、なによりも頑張り屋の千葉さんの肩をそっと後押しし、支えてくれるのが千葉さんのご主人。「昨年の 10 月道の駅かわさきの中にレストランぬくもりを開店した時は、この歳で新しいお店を持つことには悩み考えましたが、家族の支えや地域の支え、なにより地域に恩返しをしていきたいという気持ちが強まりました。さらに、たくさんの方に食してもらい、郷土料理を知ってもらえるチャンスですから。それに旦那さんの協力が大きくて」と語ります。今までは自宅を開放した農家レストランで予約制でしたが、道の駅でレストランを展開するにあたり「多くの方々に郷土料理を振る舞える」と千葉さんの挑戦は続くのでした。

今回の取材で特別にご用意してくださったカニばっとと餅のセット。餅は川崎名物炒め納豆でした。道の駅かわさき内でのレストランの他ゆっくり味わえる農家レストランぬくもり※もこれまで通り運営されています。
※農家レストランぬくもりは 5 名様以上での予約が必要です。

＼まる／ ＼まる／ センターの〇〇！

今回の特集は？

気になるあのデータ

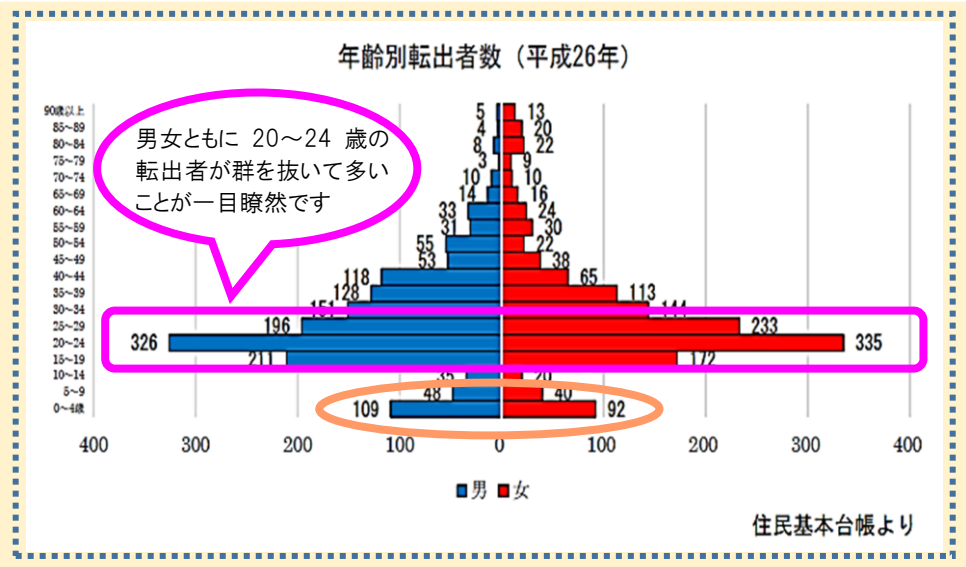


私たちが住む一関市は、総面積 1,256,25k ㎡(一関市統計要覧 平成 26 年度版より)、人口 124,361 人と面積、人口ともに岩手県内 2 位となっていますが、左の人口ピラミットをご覧いただくとわかるように、男女ともに 20 歳から 30 歳未満の若者が全体に比べ極端に少なく、60･70 歳代の方々が人口の割合からみて、多いことが特徴としてあらわれています。

昔に比べ出生率が低いということもあげられますが、若者(特に 20 歳から 30 代)の人口が極端に少ないのは、学業や就職で市外に出て生活しているということが考えられます。

また、右の図で確認いただけるように、せっかく一関市で生まれた子どもたち(0～4 歳)が保育園等の入園を前に転出しているという傾向があるようです。独身の若者だけではなく、子どもの親世代である 30～40 歳代が収入の安定や子育て住居環境などの要因で子どもと一緒に転出しているのかもしれません。

少し暗い話が続きましたが、実際は「いずれは地元に戻りたい」と考えているという方もいるようです！！



この、“地域外に出ていった若者たち”“いずれ戻って来よう思っている方々”を「どう地元に呼び戻すか」「どのような準備をして迎え入れるか」が重要だと感じます。昔のように、長男長女が必ず家を継ぐ時代ではなくなりましたが、「私たちの代でこの家も終わり」なんて嘆いていては地元に戻ってくる可能性の子どもたちや若者たちも、なんだかガッカリしちゃうのではないでしょうか！？であれば、今私たちが住んでいる一関市を盛り上げて「地元っていいもんだ！」と胸を張って言えるような、「戻っておいでよ！welcome！！」と常に情報発信ができるような体制が、今後ますます必要なのかな？と、このグラフを見ながらしみじみと感じておりました。

※上部図は平成 26 年 10 月現在の住民基本台帳を基に当センターで作成いたしました。

※下部図は一関市人口ビジョンより参考資料として掲載いたしました。

次回の特集予告・・・
花より団子！地域名物特集です。
お楽しみに！！

おしらせ

川崎　いちご狩り

甘くて美味しい、いちごの収穫を体験できます。お土産用のいちごも販売しています。ご家族連れでどうぞお越し下さい。赤いいちごが無くなり次第シーズンとして閉園になります。平日は要予約となります。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成28年2月1日（月）～5月17日（火）
【場所】もぐもぐの里
【料金】[大人]1,200円 [小人]1,000円
[幼児]（3才～未就学児童）800円
【電話】090-6854-4569

室根　室根山山開き

室根山山開きは岩手県内で一番早い山開きで、多くの登山者が参加します。登山愛好家や地元の自然愛護少年団などさまざまで、テープカットの後、一斉に登山が行われます。室根神社で安全祈願祭をとりおこなう予定です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期日】平成28年4月10日（日）
【場所】室根町折壁字室根山
【料金】無料
【問合】室根支所産業経済課
【電話】0191-64-3806

藤沢　40万本のチューリップまつり（予定）

館が森アーク牧場では、40万本のチューリップまつりを開催します。館ケ森エリアの広大な牧場に赤・黄・白など色とりどりの40万本のチューリップが咲き誇り、目に鮮やかな景色を堪能できる絶好の機会です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成28年4月29日（金）～5月8日（日）10時～18時
【場所】館ケ森アーク牧場
【料金】[大人]1,000円[小人]500円
【問合】館ケ森アーク牧場
【電話】0191-63-5100

花泉　花と泉の公園 ぼたんしゃくやく祭り

その種類も数も東北最大級の規模を誇るぼたん園です。５月上旬～６月上旬に開花期を迎える40種3,000株のしゃくやくと合わせ、ぼたん祭りが開催される、公園の一大イベントです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成28年4月29日（金）～6月5日（日）9時～17時
【場所】花と泉の公園
【料金】◆ぼたん園[大人]500円 [小中学生]250円
◆ベゴニア館800円　共通券1,000円
【問合】花と泉の公園（花泉観光開発株式会社）
【電話】0191-82-4066

一関　鈴木秀和 スプリング・リサイタル

イタリアから帰国した一関出身のテノール歌手、鈴木秀和が、故郷への想いを込めて、スプリング・リサイタルを開催します。「荒城の月」「初恋」など、お世話になった方々への感謝と、ふるさと一関市への想いを込めて演奏します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成28年4月30日（土）15時開演
【場所】一関文化センター中ホール
【料金】前売2,000円　当日2,300円
【問合】カミヤ
【電話】0191-23-5184

花泉　一升餅の祝い

御嶽山御嶽神明社では、1歳児の赤ちゃんが一升餅を背負ってご神前を歩く「一升餅の祝い（初誕生祭）」を執り行い、健やかな成長と幸福をお祈りします。ご家族おそろいでご参加ください。
※事前申込が必要です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成28年5月5日（木）10時～
【場所】御嶽山御嶽神明社
【料金】5,000円（初穂料）
【問合】御嶽山御嶽神明社
【電話】0191-82-3382

一関　レジェンド　コンサートツアー

個性が織り成す極上のアンサンブル「LEGEND（レジェンド）」は、結成10周年を記念して、コンサートツアーを開催します。一関市出身のバリトン歌手、菅原浩史（すがわらひろし）さんが出演します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成28年6月12日（日）14時開演
【場所】一関文化センター大ホール
【料金】[一般]4,500円[学生]2,000円
【問合】ＮＰＯ法人一関文化会議所
【電話】0191-21-2121

花泉　箱庭作り教室

鉢の中に、植物をメインに人形や動物などの小物を並べ景観を構成し、箱庭寄せ植えを作ります。主に多肉植物や観葉植物を使うので管理も簡単！20分から40分程度で制作できますので、お気軽にご参加ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】随時
【場所】花と泉の公園
【料金】1,500円～
【問合】花と泉の公園（花泉観光開発株式会社）
【電話】0191-82-4066

一関　お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生活を丸ごと体験できるお試し移住をしてみませんか？厳美の一棟貸切ゲストハウス「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空き家情報をご用意しています。予約は下記電話番号まで。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】2泊～7泊まで選べます。
【体験場所】一関市厳美町字外谷地
【料金】体験料は下記まで問い合わせください。
【問合】いちのせきニューツーリズム協議会
【電話】0191-82-3111

今月の表紙

千厩町の国道284号沿いにある自宅の一室を美術館として開設した「昌子（しょうこ）の小さな美術館」です。プロアマ問わず約20年間収集した東北ゆかりの作家たちの油・水彩画、版画、陶磁器等や図録、古書を含めた約5,000冊の本が飾られています。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 市民活動センターのブログは月に何回更新されますか？

A いちのせき市民活動センターでは、「スタッフリレートーク」と題して、スタッフ一人ひとりが地域の様々なイベントや最近読んだ本などについてブログを書いております。毎週リレー形式で、月に4回の更新となっております。感想などございましたら、お気軽にコメントお待ちしております。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0881　一関市大町4-29　なのはなプラザ4F　TEL0191-26-6400　Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　千厩町千厩字町149　TEL0191-48-3735　Fax0191-48-3736　Facebook